

# PTA だより

第79号

自らの心を耕す！ ～未来の宝のために～

## <市P連事務局>

〒923-0927 小松市西町25番地  
小松市立芦城小学校内

TEL (0761) 23-2478

FAX (0761) 23-0902

E-MAIL pta@kec.hakusan.ed.jp

WWW www.hakusan.ed.jp/  
kcpta/

平成25年3月1日発行  
市P連広報委員会



小松教育事務所  
所長 崎山由樹夫

## ● 大人の姿

小松市立学校PTAの皆さまには、日頃から学校教育に対して理解をいただき、子ども達の健やかな成長のために学校を様々な方面から支援していただいていることに心から感謝申し上げます。

毎年、8月に行われる研究大会では各学校のPTAのパワーとその取り組みに感心すること頻りですし、母親委員会のグループ別研修会報告書も大変素晴らしいものとなっています。昨年度は県教委主催のタウンミーティングにも「見直そう 親子のコミュニケーション」と題して発表をしていただき大変、好評でした。

また、継続して取り組んでおられる「早寝早起き朝ごはん運動」にもおおいに賛同するところであります。何よりもそのサブタイトルが「大人が変われば子どもも変わる」というところがポイントではないでしょうか。この運動に際して「私たち大人が変わる覚悟を持って、子ども達に基本的な生活習慣や規範意識を身につけさせようという運動である」と聞いたことがあります。また、鹿田会長も「まずは自分の心を耕し、大人、親としての振る舞いに立ち返る、その姿を見せることが子ども達の希望へと変わる」ということをいつも熱く語っておられます。

母親委員会も含め、一貫されていることは大人が「何かをしてやっている」あるいは「何かをしてもらう」ではなく自らの姿勢として「何をするのか」だと思えます。今の世の中は、批判や責任追及が溢れています。そういう世の中だからこそ「自らが何をするのか」という価値観がとても大切に思えます。小松市の子ども達が、そういう大人の姿を見て未来を信じてたくましく歩いていくことを願ってやみません。

私たち学校教育に携わる者も、難しい教育課題を周りのせいにならず、つねに自らを研鑽しながら、子ども達の未来を拓くために共に力強く進みたいと思います。



小松市立学校PTA連合会  
会長 鹿田 稔夫

## ● 活動を通して思う

本年度、小松市立学校PTA連合会では『自らの心を耕す！』～未来の宝のために～を主題に様々な活動を展開してきました。そんな中で思うのは「子どもは親の背中を見て育つ」というように、まずは自分自身を律して行動することが大切であり、そうすれば、きっと子ども達を取り巻く多くの問題が一つひとつ改善されていくと考えます。

以前、太平洋戦争における沖縄戦の終焉の地で行われた平和の集いに参加する機会をいただきました。この地で、兵士たちは「この国の誇りを守るために、そして家族や子ども達が一日でも長く生きながらえるなら」という思いで戦ったそうです。私たちの活動も10年後、20年後、未来の子ども達が「この地域、この国に生まれてきて本当に良かった」と心から言える世の中を創るために今日の一日は無駄ではないし、そう言ってもらえるように今日という日の活動を無駄にはしていないと思うのです。

最後になりますが、諸事業にご支援ご協力いただいた全ての皆様から感謝を申し上げます。そして本連合会に対し、PTA会長や母親代表としての経験を存分に発揮して御力添えいただいた皆様から感謝と敬意を表し結びとします。ありがとうございました。



# 早寝早起き朝ごはん運動

大人が変われば子どもも変わる

日時◆平成24年12月9日(日) 午前10時より 場所◆小松市民センター大ホール

「早寝早起き朝ごはん運動」を通して 特別委員会 委員長 道場 幹雄



「早寝早起き朝ごはん運動」も今年で6年目を迎え、12月9日に小松市民センターにて「早寝早起き朝ごはん運動」小松市民大会を開催いたしました。夏休みに募集した「標語」「ポスター・絵画」「わが家の朝ごはん」各部門と「ラジオ体操プラス1運動」をより活発に推進した地域功労者を今年も引き続き表彰させていただきました。多くの皆様にご来場いただき誠にありがとうございました。

昨今、世の中のみまぐるしい変化の中で、私たちの生活は徐々に夜型へと変わってきています。子どもたちもその影響を受け、朝食の欠食や夜更かし、インターネットやゲームなどへの依存傾向が強く見られます。このことは心身の疲れやイライラ感、学習意欲や体力の低下を招くと考えられ、基本的な生活習慣の重要性

がさまざまな方面で指摘されています。子ども達の心身の健全な成長は規則正しい生活が基本です。この事をみんなで意識して地域が一丸となり子ども達の基本的な生活習慣の確立や生活リズムの向上を図る取組を推進することが必要なのです。今後も小松市立学校PTA連合会では、大人が意識を変え、子ども達のお手本となるように家庭から地域まで、小松市民全体で「早寝早起き朝ごはん運動」に取り組んで参りたいと思います。関係各位をはじめ多くの皆様方のご厚情に感謝申し上げますと共に、今後とも変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。★「早寝早起き朝ごはん」全国協議会より優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる文部科学大臣表彰を受賞しました。



## ◆講演会について



演題： **トーク&ライブ** 松本家の子育て  
 ～ 宇宙～あなたのことを思っている～  
 講師： **松本 隆博氏** (社会貢献的エンターティナー)

当日は、“日本一有名な漫才師の兄”松本隆博氏によるトーク&ライブを開催いたしました。松本家の子育てを「貧しかったけれどおかんが楽しませてくれた」と紹介し、家族への感謝を込めて目に涙を浮かべながらギターによる弾き語りを交えてご講演いただきました。

悪天候にも関わらず多くの皆様にご来場いただき誠にありがとうございました。



### 松本 隆博 CD「アーティスト」

- 収録曲 01. アーティスト
- 02. すきやき
- 03. リトマス試験紙

発売元：KISMET RECORDS

### リトマス試験紙

作詞/作曲：松本隆博 編曲：米田浩徳

人は穏やかな時 豊かな時、やさしい  
 人は幸せな時 満たされた時、やさしい  
 誰もが辛い出来事そんな時にこそ  
 あなたのリトマス試験紙は何色だろう  
 声を枯らして  
 大丈夫だからねと言えるか  
 涙を流して (涙を)  
 流さないでと言えるか  
 やっと手に入れた一片のパンを半分に割れるか

有り余ってたものが ある日なくなった時  
 奪い合うのか分かち合うのか どちらか  
 人として生きる証が 透けて見える  
 あなたのリトマス試験紙は何色だろう  
 「明日は我身」か  
 「明日も我身」か

人への思いやり (それとも)  
 あなたの思い上がり  
 ポケットに押し込んだ両手から 手を差し伸ばせるか

安穩とした時では真っ白  
 みんなやさしい  
 誰もが辛い出来事に あなたをあなたを  
 浸してみる

あなたのリトマス試験紙は  
 あなたのリトマス試験紙は  
 あなたのリトマス試験紙は  
 何色だろう

## 〈早寝早起き朝ごはん運動〉入賞者のみなさん

### ◆『我が家の標語』部門

安宅小学校 1年 岡田 奏太さん・矢田野小学校 4年 谷口 桃さん  
 中海中学校 2年 岡崎 雅玖さん・芦城中学校 2年 福田愛央衣さん  
 芦城中学校 3年 吉中 真子さん

### ◆『ポスター・絵画』部門

稚松小学校 1年 亀田 佳織さん・能美小学校 4年 土田桜友紀さん  
 国府小学校 6年 新井 ひなさん・芦城中学校 2年 埴田 明里さん

### ◆『我が家の朝ごはん』部門

稚松小学校 1年 有賀 羽悠さん・安宅小学校 3年 寺西 悠真さん  
 栗津小学校 4年 竹田 暁さん・蓮代寺小学校 5年 中田紗友香さん

### ◆『地域功労』部門

殿町 2丁目町内会 様  
 希望丘町内会 様





# 第3回 母親委員会

## グループ別研究発表会

日時◆平成24年10月5日(金) 午後7時より 場所◆第一地区コミュニティセンター

第2回母親委員会の講演会で、田中恵子先生の「未来の宝のために」を拝聴し、その中から各グループでテーマを見つけ出し、討論するかたちで研修をしました。各グループで集まり大変意義のある時間を過ごすことができました。各小中学校に活動内容の冊子を配布してあります。ぜひご覧下さい。

### Aグループ



#### 「言葉の力」を家庭で育てよう

田村寿寿栄 (今江小) 山田ひろみ (国府小)  
 田中 堂子 (芦城小) 唐木 里佳 (符津小)  
 内藤由希子 (粟津小) 土山 和美 (犬丸小)  
 上田美由紀 (木場小) 森 三保 (波佐谷小)

### Bグループ



#### 「子どもの自立心を伸ばす為に、親が意識すること」

北川 靖子 (荒屋小) 森脇 眞弓 (安宅小)  
 伊地知あすか (苗代小) 滝野真裕美 (串小)  
 藤原 瞳 (能美小) 西本 ゆき (蓮代寺小)  
 上水口奈美 (東陵小) 酒井久美子 (西尾小)

### Cグループ



#### 「子育ての原点は食事にある」

本 清美 (中海小) 金子 享子 (第一小)  
 畑中 真美 (矢田野小) 太田智佐子 (稚松小)  
 佐野 千鶴 (月津小) 伊藤 香織 (向本折小)  
 松見 亮子 (日末小) 松下 正美 (金野小)  
 高見美千代 (那谷小)

### Dグループ



#### 「食事から見直す子育て」

小島 美穂 (丸内中) 宮下 祐美 (御幸中)  
 西瀧 昌紀 (南部中) 竹本 和美 (松陽中)  
 高見千恵子 (芦城中) 吉田 祥子 (板津中)  
 北 景子 (安宅中) 中田 由江 (中海中)  
 村中 万智 (国府中) 永田 裕恵 (松東中)

母  
親  
委  
員  
会

## 読んでみまっし!

私たち母親委員会広報担当者(山田ひろみ・藤原 瞳・松見亮子・太田智佐子)からのオススメ本です。



### 松本兄の ng

松本隆博著  
学研発行

進路に悩む若者に対して、数々の仕事を経験し歌手という夢を見つけた松本氏から、何事もネバーギブアップと前へ進む考え方・エネルギーを注入してくれる本。



### ジュニア版 青空のむこう

(小学校高学年以上対象)

アレックス・シラー 著  
金原瑞人 訳/杉原比呂美 絵  
求龍堂 発行

「すべてが切なくも心あたたまる今まで読んだ本で最高」(16歳男性)  
この本を読まれた方の感想です。  
ぜひ親子で読んでみてください。

一年間ありがとうございました。母親委員会広報担当者一同

# 〇〇〇〇 母 親 研 修 会 〇〇〇〇

◆平成24年10月18日(木)

P T A会長をはじめ総勢 28 名で見学してきました。「また家族で来たい！」という声が多く、子どもと楽しめる企画の参考になる研修会でした。



シャワーキャップを被って工場見学



金沢海みらい図書館(講演)→直源醤油工場見学→宝生寿司(昼食)→  
いしかわ子ども交流センター(ミニ万華鏡作り  
プラネタリウム『いしかわから宇宙へ』)



素敵な万華鏡が完成

## 参加者の感想

- 海みらい図書館は空間が広くとられていて、利用者のマナーも良さそうでした。
- いしかわ子ども交流センターでは、楽しく童心にかえり、万華鏡作りをすることができました。日々の忙しさを忘れゆっくりすることができました。一日とても楽しかったです。

## ◆まず参加

私が初めて小学校のP T A役員となったのは母親副代表でした。月一回の役員会の参加と校内行事のお手伝いをして、学校が身近に感じるようになりました。

次の年には母親代表となり、校外の関わりも加わって、小松市立学校P T A連合会(市P連)母親委員会の一員となりました。小松市内の小中学校35校の母親代表が集まり、いろんな研修をしてP T A活動や子育てに役立てようと活動していると知りました。他の学校の方々と交流する機会や様々な講演を聞く機会があり、とても楽しく勉強になりました。

小学校の役員は終わったのですが、今年度は市P連に残り、皆さまのご協力を賜りながら母親委員長を務め、他ではできない体験を数多くさせていただき感謝しています。

子どもが持ち帰るお便りなどの情報を無駄にせず活用し、できるだけ参加することにより、子どもにも何でも体験すればいいよと身をもって教えてあげてほしいと思います。

忙しい日々の中で時間を作るのは大変ですが、まずは参加することで、出会い・発見・再確認など得られるものは大きいですよ。



母親委員会  
委員長 東 友起子





# 第15回 小松市中学校新世代会議

## 事業概要

- 日時・場所 平成24年11月25日(日) 13:00～15:30 第一地区コミュニティセンター2F 多目的ホール
- 事業目的 子ども達が今、何を考えているのか本音や生の声を聞き、今後のPTA活動の参考とする事
- 対象者 小松市立中学校生徒40名(各中学校2年生 男女各2名)
- 事業内容 4テーブルに分かれて、子ども達からアンケートで抽出したテーマについてのディスカッション(司会・進行 新世代委員)

### テーマ

◆Aグループ 『人間関係』

◆Cグループ 『勉強・部活』

◆Bグループ 『中学生らしい規律・あいさつ』

◆Dグループ 『学校をよくするために・将来の夢』



会議前に名刺交換でリラックス



参加して頂いた皆さん  
ありがとうございました。

## 新世代会議に携わり

新世代委員会 委員長 村田 光弘

人生の中で、心身ともに最も激変する時期が中学生の頃とよく言われます。その後、身体の成長はほぼ止まるのですが、人としての精神的成長は人生を歩む限り続いていくのではないかと、そんな思いを40余年生きていく中で感じています。自分が彼らのような中学生時代、どんな事を考えていたのか、はるか30年も昔のことですので、思い出すことは出来ません。しかし、今の時代に生きる中学生に接し、彼らを通して、そういえば自分たちの頃はこんな感じだったかな、というふうにその一端をかすかに思い起こすことができます。そんな機会を得られている事に感謝をしながら今年も新世代会議のお世話をさせていただきました。

昨年に引き続き話題は彼ら自身に決められました。市内の違う中学校の男女生徒が入り混ざるグループ10名でのディスカッション。ほとんどが初対面の彼らですが、自分の意見をしっかりと述べている姿には頼もしさを感じられ、小松の将来を背負ってくれるリーダーとしての期待も膨らみました。私が一番印象に残ったのは、最後にグループで話し合った事をグループの代表が発表する場面。どの発表者も顔をあげ、理路整然とグループの意見をまとめて報告されていました。とても素晴らしい彼らの姿に正直驚きと感動を覚えました。

参加してくれた生徒のみなさん本当にありがとう。そして、今後更なる成長と輝かしい活躍を心からお祈りいたします。

## 単Pだより

## 西尾小学校

## 西尾小学校『創立40周年にあたって』

西尾小学校PTA会長 川浦 誠吾

西尾小学校は今年度創立40周年を迎えることができました。昭和47年に旧西尾小学校、西俣小学校、尾小屋小学校の3校が統合し、現在の西尾小学校が設立となりました。そして私が小学校1年の夏の夏に旧校舎から自分の荷物を持って引っ越したことを、おぼろげながら覚えています。

西尾小学校は平成2年度より、山村留学事業を開始しました。平成12年度には郊外区からの通学も可能となる石川県内初の特別認定校となり、平成17年度からは小松市の広域通学モデル校として、現在に至っています。このことは、この40年の半数の20年間は西尾地区以外の児童・生徒を受け入れてきたこととなります。

創立40周年式典の前に、西尾小学校の子ども達全員が田んぼの土を踏むところから始める稲作で収穫したモチ米を、児童・教職員・保護者・地域の方が餅つきをし、それを全員で食べる「収穫祭」。自分たちで育てたお米をいただくことの喜びを、子ども達は笑顔いっぱいに表現していました。さらに西尾小学校の児童による尾小屋鳶の演技も見事なものでした。また、校下公民館、連合町内会からは、西尾八景を表した「ふるさと西尾パネル」、「大型プリンター」を寄贈していただきました。

このようにたくさんの方々のご協力や思いを受け継いできている西尾小学校。これからも「西尾小学校で学んでよかった。来てよかった」と言われるような学校であり続けてほしいと願っています。



## 単Pだより

## 御幸中学校

## 御幸中学校『高校視察』

御幸中学校PTA会長 大久保雅春

本校PTA活動の中で最も特徴的なものに『高校視察』という行事があります。高校視察とはその名の通り保護者が直接高校を視察するのです。毎年3校高校を回り、その高校から親がプレゼンを受けるというものです。1年生の親も参加することが出来るので、3年間参加すれば公立私立で9校ものプレゼンを受けることが出来るのです。これにより、どの高校にどんな特色があり、どのような方針で授業をし、学校運営をしていて進学や就職の傾向などもよりわかりやすくなるのです。勿論全ての親が参加するわけではありませんが、それぞれの学校の特色や、参加した方達の感想は親同士のコミュニケーションの中で共有されるわけです。中学生にとって高校入学はゴールではなくこれから先の長い人生でのまだまだ通過点に過ぎませんが、高校受験はほとんど中学受験をする事のないこの地域の子ども達と親にとって初めて『進路選択』をしなければいけない重要な一事です。本年度のPTA活動のテーマは『学び、育てよう。豊かな心と生きる力』です。社会の仕組みがどんどん複雑になっていく現代社会において、今子ども達に必要なのは『生きていく力』とあらゆる環境に負けないキャパの広い『豊かな心』だと思います。私はどんな子どもにも必ず得意な分野、能力が人より長けている部分があると思っています。そして、それらを見極めて応援してあげられるのは親であり、学校であり地域であると思っています。この高校視察は、子ども達が『何がしたいのか何が出来るのか』それを今後模索していく中でそれぞれのコンセプトを持つ高校を先入観無く選ぶ、そして頑張るための正しい助言をするための大きな助けになっています。また、本校では前年度から建設をしていた新校舎も今年度内にいよいよ全てが完成し、新年度には竣工式も行われます。気分新たに活発なPTA活動を目指します。

## ◆東海北陸ブロックPTA 研究大会報告◆

小松市立学校PTA連合会 副会長 金田 仁

今回の研究発表の講師はTVなどでも活躍しておられる、弁護士の菊地幸夫さんでした。TVの放送などで温和な面白そうなイメージを個人的に持っており私は、今回の講演を楽しみにしておりました。会の冒頭、菊地さんのプロフィールなどを自らが紹介になりながら、これから本題に入るのかという時に、普段の放送での声のトーンより若干低めで、手持ちマイクからかなり距離を取ってお話しているのに気が付き、かなり集中しないと聞け事が出ないのではないかと感じ、周りの皆さんはどうかと見渡すと、少なくとも私がちょっと背伸びして視野に入る方々は、講師のただ一点に集中して講話に聴き入り、慌てて私も姿勢を正して講話に聴き入りました。菊地さんのお話の中で特に印象深かったのは、三人のお子さんが思春期時に勉強のさせ方について悩んだという話で、この点は司法修習生の講師をおやりになる程の方でも、私たち親と同じく悩むのだなと共感しました。菊地さんは押しつけがましく、強く勉強を強要した時より、偶々忙しい日が続く、自宅の居間で学生たち向けの講話の資料を紐解き、準備の為調べ物をしていたら、自然と居間の自分の周りに娘たちが其々読み物や、勉強をして集まっていたとの事でした。私はこの話を聞き、やはり大切なことは「大人が姿勢を見せなければ、子どもは変わらない」という事でした。子ども達があるべき姿は私達大人のあるべき姿です。私たちは絶えず子ども達に対して向上的な意識を感じさせる行動をしなければならないと、あらためて感じました。そう感じ入っていた時に菊地さんの講話が終盤を迎え、終了と同時に割れんばかりの拍手の中、ここまで聴衆を魅了されたのは菊地さんのお人柄と、前段に感じた会話術だと思いました。決してテクニックではなく、本来の言葉に意味と気持ちを感じさせるところは、私達も子どもと接する時に活用できるようにしたいと思いました。

★平成27年度 東海北陸ブロックPTA 研究大会 小松大会 開催決定!!



# これからの学校支援のあり方をテーマにした調査研究

～ 会長校長研修会 意見交換 ～

日時◆平成25年1月18日(金)

場所◆ホテル サンルート小松

昨年末に小松市内の全小・中教職員対象にアンケート調査を取らせていただきました。教職員の皆様には、大変お忙しい中ご協力いただき誠にありがとうございました。

市P連では、学校や子ども達を取り巻く様々な問題や課題に対して、昨年度より「学校支援」を研究テーマとして取り組んで参りました。今回のアンケートは、賛否両論の意見がありましたが、教育現場における現状と先生方の日々感じておられる生の声を率直にお聞きし、その結果を受けて協議を重ね、今後のPTAの発展の一助になればと思っております。

今回のアンケートで印象に残ったのは、学校側(先生方)の負担が多くなっているという現実と参加協力する保護者が年々減少して、時代に合ったPTAの組織や事業の検討をしなければいけないという回答です。確かにPTAとは、先生だけとか保護者だけという活動ではありません。共に協力して活動していくことが基本であります。しかし、役員任期が2年から1年に変動する学校が増えている中、毎年の役員の引き継ぎが肝心になる訳ですが、この部分がうまく機能していなかったりすると当然学校側の負担が大きくなることは確実です。単年度制であれば、余計に引継ぎを入念に行い、先生方と意思疎通をしながら、事業ごとの効果を検証し次年度に引き継ぐことが大切であります。また、毎年行う事業を、ただ例年に沿って行うのではなく、委員長役員がしっかりとした計画を立てることも大事です。学校行事と絡み合わせた事業のスリム化も今の時代には必要なことかも知れません。

また、保護者の価値観が多様化する今日、保護者同士の価値観を共有するために、各学校でのPTA活動は、今の時代に適しているかという検証も必要なことではないでしょうか。簡単に言うと、10年、20年前の事業をそのまま継続していないかということです。PTAが開催する講演会や奉仕作業等の事業は欠かせないことですが、参加数が少ない中では、なかなか効果がありません。参加率を高めるために、保護者同士がよく話し合い、呼びかけを行う等の工夫も大切だと思います。また、今の時代に必要な「ノーゲーム・ノーテレビ」や「いじめ対策」の問題は、PTAが率先して対策を協議することも必要なことです。

PTAとは、保護者・先生・地域の皆が協力し合い、役割分担を明確にして共に創ることが基本ですが、今一度、このP側・T側の役割分担を見直すことで、更なる協力が図れるのではないのでしょうか。市P連では、今後もこのような協議を重ね、子ども達のために「学校支援」を推進して参る所存です。ご指導ご協力を宜しくお願い致します。

小松市立学校PTA連合会 会長 鹿田 稔夫

## ひだまり



### ● 誕生日に

小松市立学校 PTA 連合会 副会長 浅蔵 一華

先日、娘が10歳の誕生日をむかえました。最近は一人でおにぎりを作り昼食の準備をしてくれたり、後かたづけをしてあったりと驚くことがあります。祖母と3人で台所に並ぶことも増えました。そんな時の何気ない会話が楽しかったりもします。今は学校や友達の話をよくしてくれます。AKBの話には全くついていきません。朝、着る洋服も自分で選ぶようになってきました。これまではつい先回りして手を出してしまうことが多々ありましたが少し控えるように心がけています。時々、内容によっては「どうしよう?」の問いかけに「どうしたい?」と答え、一緒に考えるようにしています。親子には年齢に応じたちょうど良い距離感が大切であるとよく言われます。子どもの自立のために、温かく見守ることも必要なんだと思います。このように思うようになったのはPTA活動や学校行事に参加するようになってからです。講演会や母親委員の方々と情報交換は日々の子どもとの関わりを見直す良い機会となりました。

毎年の事ですが、クリスマス、お正月に続いての誕生日なのでつい手を抜いてしまいそうになります。そんな時、1/2成人式と言う言葉を耳にしました。今年は節目の誕生日。心から祝ってあげようと思いました。本当の成人式まで10年。その時、その時期の子育てを楽しみたいと思います。

## 編集後記

この一年を通して、子ども達の教育に対し、どれだけ多くの方々が関わっておられるのかが、まだまだ入口ではありますがわかりました。本当にありがたいことです。皆様方にお礼の気持ちでいっぱいです。

また原稿を頂いた皆様、心のこもった文章をありがとうございました。

広報委員長  
武部 哲也

